

社会資本総合整備計画

事後評価書

令和05年03月31日

計画の名称	嬉野市の新たな玄関口となる新幹線嬉野温泉駅周辺における安全・安心な都市空間の創出（防災・安全）													
計画の期間	平成28年度～平成32年度（5年間）											重点配分対象の該当		
交付対象	嬉野市													
計画の目標	『嬉野市の新たな玄関口となる新幹線嬉野温泉駅周辺における安全・安心な都市空間の創出』 ・新たに整備する新幹線嬉野温泉駅の駅前広場をはじめ、本市の新たな玄関口となる駅周辺市街地の安全・安心な都市空間の創出に向けて、歩行空間のバリアフリー化、安全対策を実施します。 ・本市の新たな玄関口としての交通結節拠点の形成に向けて、利用者の快適性や移動の連続性の確保を図ります。													
全体事業費（百万円）	合計（A＋B＋C＋D）		626	A	626	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C／（A＋B＋C＋D）	0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		（H26当初）	（H28末）	（H30末）
1	安全・安心で快適な都市空間の確保に向けて、駅前広場や区画整理事業区域内の歩行空間におけるバリアフリー化率の向上を図る。 地区内都市計画道路（駅前広場を含む）のバリアフリー化率 （バリアフリー化率）＝（誘導用ブロックの設置率）			
		2%	72%	86%
2	交通事故の少ない快適な歩行者空間の確保に向けて、歩道整備延長を進めることで、歩行者の交通環境や地域の防犯対策などの安全性に関する満足度の向上を図る。 住民アンケート調査における嬉野駅周辺地区を対象とした「歩行者の交通環境や地域の防犯対策などの安全性」に関する満足度 （「満足5点」「やや満足4点」「普通3点」「やや不満2点」「不満1点」で算出した時の平均点）			
		2ポイント	3ポイント	3ポイント

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-	避難確保計画の策定	避難行動要支援者名簿の提供	
満足度調査の従前値は、平成22年の嬉野市都市計画マスタープラン市民アンケート調査の結果で市全体の平均値。目標数値においては、市平均よりも向上する事を目指して設定 平成30年度まではバリアフリー法に基づき重点計画としていたが、平成31年度以降は重点計画の内容変更により対象外															

A 基幹事業																				
基幹事業（大）	番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	種別 1	種別 2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名 / 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況	
		一体的に実施することにより期待される効果																		
		備考																		
道路事業	A01-001	街路	一般	嬉野市	直接	嬉野市	区画	改築	嬉野温泉駅周辺地区（都 ）新幹線嬉野温泉駅 1 号 線ほか 2 路線	区画整理 A=14.6ha	嬉野市	■	■	■	■	■	626		-	
											小計						626			
											合計						626			

事後評価

○事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
庁内担当課(新幹線・まちづくり課)による検討	令和5年3月
	公表の方法
	市役所ホームページで公表、新幹線・まちづくり課(嬉野庁舎)で閲覧

○事業効果の発現状況

定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	■地区内都市計画道路のバリアフリー化率 駅周辺地区では、新幹線開業にあわせた歩行者道路の整備により、数値目標の達成に至っている。 ■歩行者の交通環境や地域の防犯対策などの安全性に関する満足度 駅周辺地区では、新幹線開業にあわせた歩行者道路の整備により、歩行者の交通環境や地域の防犯対策などの安全性を確保できたが、温泉街内の道路整備を見送ったため、数値目標の達成に至らなかった。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況(必要に応じて記述)	嬉野市では、市民や観光客の方が、高齢者、障がい者、外国人などの区分なく、安全で安心な社会生活や観光を楽しむことができる「ひとにやさしいまちづくり」に取り組んでおり、その一環として、バリアフリースターセンターの設置や施設整備・環境整備に取り組んできたところである。 嬉野温泉駅周辺は新幹線開業にあわせて、道路整備の他、西九州新幹線嬉野温泉駅、国立病院機構嬉野医療センター、まるくアイズ(交流センター)をはじめとして、地区全体でのバリアフリー化が進んだ。また、嬉野市内で手ぶら観光ができるよう、まるくアイズから宿泊先までの手荷物配送サービスを令和5年度からスタートしており、バリアフリーの観点からも観光を楽しむための環境整備が官民連携で進んでいる。

○特記事項(今後の方針等)

- 嬉野温泉駅前の機能維持のための取り組み...店舗立地等を誘導する際は、バリアフリーやユニバーサルデザインの導入を働きかける。また、メタバス活用等による物理的バリアのない新たな観光まちづくりを展開。まちづくり会社や各種団体等と連携し、地域と観光客をつなぐ持続可能ですべての人にやさしい独自の魅力を創出。
- 嬉野温泉駅と温泉街の移動や回遊性向上...バリアフリーに必要な施設の適切な維持管理に努めるほか、「地域公共交通計画」に基づいた公共交通ネットワーク見直しや、自動運転の導入に向けた検討等を推進。
- 温泉街の活性化と宿泊客数の維持...地域内の各産業と連携した魅力創出、佐賀嬉野バリアフリーセンターによる活動を継続。
- 市内全域へのバリアフリー化の展開...本事業での取組成果を活かし、市内全域でハード面では、あらゆる施設でのバリアフリー化の整備促進や、多言語対応やユニバーサルデザインの導入を推進。ソフト面では、人々が助け合う「暮らしのバリアフリー」や嬉野市を訪れる人のための「バリアフリー観光」を継続。

○ 目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値 / 実績値		目標値と実績値に差が出た要因
1	地区内都市計画道路のバリアフリー化率（％）		
	最 終 目標値	86％	当初予定通り事業の推進ができ、目標値を達成することができた。
	最 終 実績値	100％	
2	歩行者の交通環境や地域の防犯対策などの安全性に関する満足度（ポイント）		
	最 終 目標値	3ポイント	社会実験で嬉野温泉街内の本通り線の実歩行者空間の改善に向けた検討を行ったが、整備を見送ることとしたため、目標値を達成することができなかった。
	最 終 実績値	2ポイント	

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和05年03月31日

計画の名称	嬉野市の新たな玄関口となる新幹線嬉野温泉駅周辺における安全・安心な都市空間の創出（防災・安全）													
計画の期間	令和03年度～令和03年度（1年間）											重点配分対象の該当		
交付対象	嬉野市													
計画の目標	『嬉野市の新たな玄関口となる新幹線嬉野温泉駅周辺における安全・安心な都市空間の創出』 ・新たに整備する新幹線嬉野温泉駅の駅前広場をはじめ、本市の新たな玄関口となる駅周辺市街地の安全・安心な都市空間の創出に向けて、歩行空間のバリアフリー化、安全対策を実施します。 ・本市の新たな玄関口としての交通結節拠点の形成に向けて、利用者の快適性や移動の連続性の確保を図ります。													
全体事業費（百万円）	合計（A+B+C+D）		182	A	182	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C / （A+B+C+D）	0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		（H26当初）	（H28末）	（H30末）
1	安全・安心で快適な都市空間の確保に向けて、駅前広場や区画整理事業区域内の歩行空間におけるバリアフリー化率の向上を図る。 地区内都市計画道路（駅前広場を含む）のバリアフリー化率 （バリアフリー化率）＝（誘導用ブロックの設置率）			
		2%	72%	86%
2	交通事故の少ない快適な歩行者空間の確保に向けて、歩道整備延長を進めることで、歩行者の交通環境や地域の防犯対策などの安全性に関する満足度の向上を図る。 住民アンケート調査における嬉野温泉駅周辺地区を対象とした「歩行者の交通環境や地域の防犯対策などの安全性」に関する満足度 （「満足5点」「やや満足4点」「普通3点」「やや不満2点」「不満1点」で算出した時の平均点）			
		2ポイント	3ポイント	3ポイント

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-	避難確保計画の策定	避難行動要支援者名簿の提供	
満足度調査の従前値は、平成22年の嬉野市都市計画マスタープラン市民アンケート調査の結果で市全体の平均値。目標数値においては、市平均よりも向上する事を目指して設定 平成30年度まではバリアフリー法に基づき重点計画としていたが、平成31年度以降は重点計画の内容変更により対象外															

A 基幹事業																				
基幹事業（大）	番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	種別 1	種別 2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名 / 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況	
		一体的に実施することにより期待される効果																		
		備考																		
道路事業	A01-001	街路	一般	嬉野市	直接	嬉野市	区画	改築	嬉野温泉駅周辺地区（都 ）新幹線嬉野温泉駅 1 号 線ほか 2 路線	区画整理 A=14.6ha	嬉野市	■					182		-	
		嬉野市の新たな玄関口となる新幹線嬉野温泉駅周辺における安全・安心な都市空間の創出（防災・安全） 計画期間 平成28年度～令和2年度と紐付け計画																		
											小計						182			
											合計						182			

事後評価

○事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
庁内担当課(新幹線・まちづくり課)による検討	令和5年3月
	公表の方法
	市役所ホームページで公表、新幹線・まちづくり課(嬉野庁舎)で閲覧

○事業効果の発現状況

定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	■ 地区内都市計画道路のバリアフリー化率 駅周辺地区では、新幹線開業にあわせた歩行者道路の整備により、数値目標の達成に至っている。 ■ 歩行者の交通環境や地域の防犯対策などの安全性に関する満足度 駅周辺地区では、新幹線開業にあわせた歩行者道路の整備により、歩行者の交通環境や地域の防犯対策などの安全性を確保できたが、温泉街内の道路整備を見送ったため、数値目標の達成に至らなかった。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況(必要に応じて記述)	嬉野市では、市民や観光客の方が、高齢者、障がい者、外国人などの区分なく、安全で安心な社会生活や観光を楽しむことができる「ひとにやさしいまちづくり」に取り組んでおり、その一環として、バリアフリースターセンターの設置や施設整備・環境整備に取り組んできたところである。 嬉野温泉駅周辺は新幹線開業にあわせて、道路整備の他、西九州新幹線嬉野温泉駅、国立病院機構嬉野医療センター、まるくアイズ(交流センター)をはじめとして、地区全体でのバリアフリー化が進んだ。また、嬉野市内で手ぶら観光ができるよう、まるくアイズから宿泊先までの手荷物配送サービスを令和5年度からスタートしており、バリアフリーの観点からも観光を楽しむための環境整備が官民連携で進んでいる。

○特記事項(今後の方針等)

- 嬉野温泉駅前の機能維持のための取り組み...店舗立地等を誘導する際は、バリアフリーやユニバーサルデザインの導入を働きかける。また、メタバス活用等による物理的バリアのない新たな観光まちづくりを展開。まちづくり会社や各種団体等と連携し、地域と観光客をつなぐ持続可能ですべての人にやさしい独自の魅力を創出。
- 嬉野温泉駅と温泉街の移動や回遊性向上...バリアフリーに必要な施設の適切な維持管理に努めるほか、「地域公共交通計画」に基づいた公共交通ネットワーク見直しや、自動運転の導入に向けた検討等を推進。
- 温泉街の活性化と宿泊客数の維持...地域内の各産業と連携した魅力創出、佐賀嬉野バリアフリーセンターによる活動を継続。
- 市内全域へのバリアフリー化の展開...本事業での取組成果を活かし、市内全域でハード面では、あらゆる施設でのバリアフリー化の整備促進や、多言語対応やユニバーサルデザインの導入を推進。ソフト面では、人々が助け合う「暮らしのバリアフリー」や嬉野市を訪れる人のための「バリアフリー観光」を継続。

○ 目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値 / 実績値		目標値と実績値に差が出た要因
1	地区内都市計画道路のバリアフリー化率（％）		
	最 終 目標値	86%	当初予定通り事業の推進ができ、目標値を達成することができた。
	最 終 実績値	100%	
2	歩行者の交通環境や地域の防犯対策などの安全性に関する満足度（ポイント）		
	最 終 目標値	3ポイント	社会実験で嬉野温泉街内の本通り線の実歩行者空間の改善に向けた検討を行ったが、整備を見送ることとしたため、目標値を達成することができなかった。
	最 終 実績値	2ポイント	